

令和6年9月25日
農産園芸課
経営普及課

収穫期を迎えた「新之助」の速やかな収穫と丁寧な乾燥・調製を
呼びかけています

9月24日に県内で強い乾燥が発生し、収穫期を迎えた「新之助」では胴割粒の発生する危険性が高まっています。

玄米の品質低下を防止するため、別紙「異常高温・高飽差緊急情報 第2号」により、農業者へ対し、可能な限り速やかな収穫と丁寧な乾燥・調製を呼びかけています。

○ 技術対策の内容

別紙「異常高温・高飽差緊急情報 第2号」のとおり

なお、上記対策は、以下の県ホームページでもご覧いただけます。

<https://www.pref.niigata.lg.jp/site/nouen/r6inasaku.html>



<本件についての問い合わせ>

農産園芸課 参事(稲作振興担当) 瀧澤

(直通) 025-280-5810 (内線 2923)

経営普及課 参事(稲作技術統括) 樋口

(直通) 025-280-5841 (内線 3072)

異常高温・高飽差緊急情報(第2号)

令和6年9月25日
新潟県農林水産部

9月24日に強い乾燥が県内で観測されました。
新之助は、胴割粒発生の危険性が高まっています。
粳の黄化割合や粳水分を確認し、速やかに収穫してください。

対応が必要な水稻

品種	新之助
----	-----

気象状況

- 9月24日に強い乾燥が発生し、新之助の胴割粒発生の危険水準を超える日平均飽差^{注)}となりました。

注) 飽差は空気の乾燥程度を示す指標。数字が大きいほど乾燥程度が大きい。

当面の管理対策

- 新之助は、多くのほ場で収穫適期を迎えています。粳黄化率80~85%をめやすに遅れずに収穫してください。
- 粳水分が22%未満の場合はできる限り速やかに収穫してください。
- 収穫時の粳水分が低い場合は、日中は常温で通風乾燥を行い、点火は夜間等で気温が下がってから、送風温度を低めに設定(毎時乾燥速度が0.5%以下)し乾燥しましょう。
- 乾燥機に2段乾燥機能や休止乾燥機能があれば利用し、丁寧に乾燥してください。
- 新米の盗難が県内で発生しています。盗難防止対策を強化してください。

熱中症と農作業事故に注意しましょう。

参考資料

県内アメダス観測地点（10 地点）における日平均飽差

(g/m³)

地点名	弾崎	村上	相川	新潟	新津	三条	長岡	柏崎	大潟	高田
9/24 (火)	5.3	5.1	7.2 ○	7.3 ○	欠測*	5.1	4.5	4.1	3.5	5.8

数値下の記号について 6.0 未満：なし 6.0 以上9.0 未満：○ 9.0 以上：●

この値は、日平均気温・日平均湿度から日平均飽差を計算した値です。

過去のデータについては、下記ホームページに掲載しています。

<https://www.pref.niigata.lg.jp/site/nouen/r4suitou.html>

*：新津は12時と13時に計測が休止したため欠測としています。

飽差（g/m³）とは

1立方メートルの空気中に、あと何グラムの水蒸気を含むことができるかを示す値のことで、空気の乾燥程度を表しています。この数値が大きいほど、空気中により多くの水分を含むことができ、渇きやすい状態であることを示します。

飽差と胴割粒の関係

胴割粒は、出穂後の高温や収穫期頃の乾燥、刈遅れ等で発生します。収穫期近くの籾水分が22%未満に低下した時期に、高い飽差に遭遇すると胴割粒が急増することが分かっています。特に新之助で多発しやすいです。この時の飽差のめやすは、「こしいぶき」、「コシヒカリ」では9 g/m³以上、「新之助」では6 g/m³以上です。胴割粒の発生を抑えるため、出穂後積算気温800℃から飽差を確認し、この条件に遭遇した場合は900℃を収穫開始期として早期に収穫を開始しましょう。

農業総合研究所研究成果「フェーン現象や乾燥による胴割粒の多発を抑制する早期収穫判断のめやす」を参考にしてください。

<https://www.pref.niigata.lg.jp/uploaded/attachment/333766.pdf>

* 籾の水分測定方法

ほ場内の平均的な株（数株）を数株選んで主茎（1本）を抜き取り、籾の表面が濡れていたらふき取り、籾を全て脱穀して、市販の穀物用水分計で籾水分の測定を行う。